

■日本燃焼学会創立50周年記念特集■

再録：燃焼研究第100号(1995)1

「燃焼研究」第100号の発刊によせて

日本燃焼学会会長 新岡 嵩

とうとう本誌も第100号を迎えた。初期の頃のものと比較すると、内容はもちろんであるが、表紙をはじめ雑誌の体裁も格段に素晴らしくなり、「燃焼研究」の進展ぶりが伺える。日本燃焼学会に改組してから、校閲を経たオリジナルの論文も掲載できるようになったので、学術雑誌として一層価値の高いものになっていくと期待される。

古いことは必ずしも良いことに結びつかないが、年令も100才を越えると畏敬の念を持って注目されるので、本誌も一目も二目も置かれるようになればと思う。約20年前になるが、いまは亡くなったB. Lewis先生に、第16回国際燃焼シンポジウムでお会いし、勇気付けられ、続けることの意味を知ったことや、第23回国際燃焼シンポジウムでは、F. A. Williams先生が、金賞受賞の挨拶の中で、若い人々に続けることの貴重さを説いていたのを思い出す。「燃焼研究」も続けたからこそ今日があるのであろうが、同時に、続けることは、常にある種のチャレンジと厳しさが伴ってはじめて意味を持つことも肝に銘じておかなければならない。

再録：燃焼研究第100号(1995)63

日本燃焼学会ロゴ決定のお知らせ

日本燃焼学会のロゴを選定するにあたり、会員から公募しましたところ、5名の方から18点の応募がありました。これらについて、理事会で選考し、さらにデザイナーによる手直しを加えて、最終的に以下のものに決定しました。このロゴは、すでに日本燃焼学会表彰の副賞である楯に使用していますが、今後さらに広く使用されるようにと考えています。応募して下さいました皆様にお礼を申し上げるとともに、会員の皆様にはこのロゴをかわいがって下さいますようお願いいたします。

